

ミンダナオの風

執筆編集*松居友 発行:ミンダナオ子ども図書館



立正佼成会の子どもたちが
平和の祈りに参加するため
今年もミンダナオにやってきました
今回は、ダバオの地域の浜で再会
イスラム地域とクリスチャン地域を見渡せる
マノボ族の先祖伝来の美しい土地で
平和の祈りを行った

私たちの活動許可領域は、ミンダナオ全域で
ダバオ市の海沿いの貧民街も含め
先住民族の多い山岳地帯から
海の美しい半島地域までの広い活動範囲
2週間前の突然の予定変更だったにも関わらず、
かえって充実した企画が出来た

子どもたちの用意した「夢ポケット」も、
戦闘に奇まれてきた
山岳のマノボ族の子どもたちと
フランキー・ジョンに追い詰められている
先住民族の子どもたちに手渡した
その結果、前回以上に素晴らしい出会いとなった!

記録は、多くの写真と共にサイトに掲載したので
ご覧になることをおすすめします
検索:「ミンダナオ子ども図書館」
「ミンダナオ子ども図書館だより」
次回は3月に、お会いしましょう!

ミンダナオ子ども図書館流

平和構築

ミンダナオは、今比較的平和だ。
 イスラム自治区のダウトランの街側ではなく、フランギ川沿いのピキットとの境界地域のリーダー（地域紛争）を除いて。もしも次回戦闘が起これるとしたら、この地域だろう。先住民族をはじめとする反政府勢力も、先祖伝来の土地をめぐる問題に性根で取り組み始めたようだ。新政権が、こうした動きにどのような対応を見せるかが今後の平和構築の鍵だろう。現政権にたいする期待が大きいだけに、失望が新たな戦闘のきっかけにもなる。日本を含む、国際停戦監視団の動きも気になるところだ。

世界の政治的、経済的バランスが大きく変化しようとしているこの時期。フィリピン経済の深層は、華僑も含む中華圏で維持されていることは、現地では自明の理だが、南シナ海の石油や天然ガスをはじめとする資源の国際利権の獲得問題が、ミンダナオ和平作りにどのような影響を及ぼすのかは別の次元。単純な日本は、二元論にすぐに引かかるとか？戦争を起こす背景と、起こすためのテクニック（仕掛け方と仕掛けの作り方）を少し学んだ方が良くもしいない。

ミンダナオ子ども図書館は、今は周囲が比較的平穏であるが故に、かえって平和構築活動を積極的に展開している。

極貧の子たちに高等教育を与えるだけではなく、平和の祈りや文化活動、他民族、他宗教、異文化を尊重し合い、戦闘が起これば壁を越えて仲間を救済しに向かう心を育てる試みや、地域の人々の心を開く試みなど。

立正佼成会の若者たちが、日本の仏教徒の立場から、毎年「平和の集い」に参加して下さるのは、本当に心強い。こちらの若者たちの心を育て開くためにも、



未来を作る日本の若者たちにとっても将来大きな実りをもたらす体験だろう。

宗教も民族も文化の違いも、いったん脇へ置いておいて、まずは友達になること。それは、重苦しい雲のあいだから差し込む、一条の日光のように感じられる時間。



友達の抱えている問題、困難、悲しみ、苦しみを、自分の事として受け止めること。そして、どのような小さな行動でも良いから、何かをしたいと心から感じ、それをいつか実行に移すこと。すべては、友情と愛から始まる。



戦闘のたえなかったブアランで 奇跡が起こった

ブアラン集落は、ピキットとアレオサンの境の丘陵地帯にある地域。

丘の上は、クリスチャンの移民が農地を広げ、丘の麓にはイスラム集落が広がっていたが、30年にわたって繰り返される戦闘で対立が続ぎ、住民の数も五分の一になってしまった。

2008年のミンダナオ全域で八〇万の難民が出た戦闘。その最初のきっかけになったのも、この地だった。MCLのボードメンバーでピキット市のソーシャルワーカー、グレイスさんが、「2000人ほどの避難民が出ている。地域に関係した議員が、クリスチャンの農民に武器を渡し、それが、戦闘を起こすきっかけになっている・・・」と語り。私たちは、ただちに救済に向かった。

それが、ブアランの丘陵地帯だった。



クリスチャン集落のニューバレンシア。そこに住むすべての住民は、武器を持っていてだけでなく、公式に武器を扱い、戦闘を開始できる民兵として登録されている。戦闘を起こすきっかけを作る集団として良く現地で名前があるのが「たちの悪い民兵組織と暗殺集団」で、両方とも地元の政治的経済的有力者の私兵集団のようなものと言われる。

戦闘（戦争）は、最初から国軍が侵攻するわけではない、正当防衛の理屈や現地からの依頼を受けるためにも、意図的



に事を起こす必要があり、その役割を担うのが、こうしたセミプロ集団なのだ。しかし、民兵ももともとは普通の農民で、自分たちの土地を守りたい一心で兵士化するわけだから、心の底では、戦争を望んでいるわけではない。また、僻地であるだけに、背後に潜む戦略や真実を知っているわけではない。2008年も、現地の人々は、小さないざこざが八〇万の避難民を出すところまで拡大するとは思ってもいなかったらう。

戦闘が大規模化するには、あらかじめ国軍が参加するシナリオが描かれていなければ出来ないわけで。地域的に起こる



リドーと呼ばれる地域紛争が大規模な戦闘に拡大するか否かは、背景に国際的なシナリオが描かれているかいないかによる。国際的なシナリオが描かれる理由は、大概が国際利権勢力による資源確保争いで、ミンダナオは農業資源ばかりではなく、天然ガス・石油・希少金属が豊富。」

しかし、そのとぼつちりをもろに受けるのは、地域住民のなかでも、とりわけ子どもたちだ。ここブアランの子どもたちは、下のイスラム教徒も上のクリスチャンの子どもも、度重なる戦闘で避難民生活を余儀なくされて学校に行けず、ブアラン小学校では、去年、創設以来なんと12年ぶりに卒業生が出たぐらいだ。

MCLは、すでに下のイスラム地域に保育所を建設し、多くのスカラシップ奨学生を採用し、今年も、日本政府に小学校建設のODA草の根資金の提案をしてきた。提案は現在、最終検討中だが、これが実現すれば、マカプアル小学校のケー





と同様に、日本政府の平和構築活動として評価されるだろう。

話はそれだが、下のイスラム教徒がひどく恐れている、丘の上のクリスマスチャン集落（逆も真だが）の事を知ったのは今年で、福祉局のグレイスさんから、ここに保育所を建設できないだろうか、と言う依頼が来た。そのとき私は、これはこの地に平和を作る、小さいけれども大きな足がかりになるな、と直感した。

考え続けて練り上げた段取りはこうだ。

まずは、保育所建設を決定し、現地の有力者と話し合う。次に、交流のための子どもたちによる「読み語り」を行う。

そのときに、イスラムのスタッフと奨学生を同伴する。（今までイスラム教徒を決して入れない方針でできていたので、その壁を打ち破る）。

イスラム教徒も同伴する許可を得て、このもくろみは大成功に終わった。現地の子どもたちの喜び方もすごかった。読み語りでも、今までない、平和な雰囲気の子どもたちの歓声と共に村に広がった。

次に、日本から山元眞神父と小倉、行橋のカトリック教員が来る（MCLジャンのメンバーだが）そのときに、カトリックであるこの村で、山元神父による平和のミサをあげる。

このもくろみも、大成功で終わった。ピキットのOMIの神父も、教会の聖歌隊も参加した。聖歌隊員は、この集落に来るだけでも恐れていたが、小さな集落の掘っ立て小屋のような教会の、地元の神父も年に四回だけ足を運ぶ場所の、小さな小さなミサだったにもかかわらず、感動し地元的神父も目頭を熱くしていた。最後に私たちは、地元の子どもたちと一緒に遊び踊った。

こうした過程を得て、保育園が完成し、いよいよ開所式となった。

寄贈者は、千里ニュータウン教会の多湖さん家族と友人たち。「正義と平和」の



運動に生涯を捧げた、ご主人の多湖正紀さんの死を追悼して建てた保育所。そのときの詳細は、ウェブページ（検索：ミンダナオ子ども図書館）に詳しく載せたが、思いがけない奇跡が起こった。

下の村のイスラム教徒の村長は、本来自分の村であるクリスマスチャン集落で完成した保育所の開所式に出席し、サインセレモニーに参加するのが常識なのだが、当日まで、恐れて来ようとはしなかった。

しかし、すでに奨学生も多い、イスラムの村の子どもたちや家族も招待し、参加してもらおうことにしていたので、それを聞いて、意を決して自分も出席。

クリスマスチャンの村では、下のイスラム子どもや家族が、大勢で現れたことに



最初は、度肝を抜かれたようだが、その後急速に接近。最後は、写真のように、勇猛な司令官とイスラムの村長が、心から握手を交わした。

村長が言った言葉、「子どもたちだったら、この対立を乗り越えられるかもしれない」という言葉が、見事に現実のものになった。参加者は、村人たちを含めて、事の成り行きに呆然とし、思わず涙ぐんでいた。

今後、下の村に新たな学校が建ち、クリスマスチャン、イスラムの両方から奨学生を採用し、日本の仏教徒の人々も交えて、平和の祈りをこの地でいつか行いたい。



サパカン 茨木ロータクト

反政府組織と呼ばれる、MILFの強い地域。イスラム自治区（ARMM）に属し、舟でしか到達できない。平和構築のためには、重要な位置にある。MCLでは、多くの小学校のスカラーがいるが、小学校の建設が平和構築への課題だ。



キアタウ 諏訪 淑子

最近、訪問者が現地体験に訪れて、感動して帰ってくる、美しい山岳地域のマノボ族の集落。電気も無く、学校も遠い非常に貧しい村だが、子どもたちが素直で、実にかわいらしい。はるか谷底に巨大な鍾乳洞もあり、素晴らしい場所。



フロッド 丹原 美穂

最近、リドーと呼ばれる地域紛争があり、砲弾で窓やトイレの一部が崩れ、内部に弾痕が残った。イスラム地域の保育所。しかし、子どもたちは元気だ。これから、補修を始める。MCLでは、毎年必要な補修をしていきますので、ご心配なく。



パイドフランギ 溝田美恵子・山元 眞

イスラム地域の大きな川沿いの集落。対岸はダトウピアンで、繰り返し避難民状態にあるばかりではなく、毎年のように、床を超える洪水に襲われている。保育所が、避難民収容施設に代わるが、子どもたちは、困難にめげることなく明るい。



ブアラ 高橋 毅

本文に書いた、戦闘勃発地域ブアラの下部のイスラム地域に建てた保育所。保育所建設の最初期に当たり、ここの子どもたちは、何度も避難民化し、MCLで繰り返し救済をしている。今、この地域の上に、クリスチャン集落の保育所を開所。



パロン 高橋 毅

上と同時期に建てられた保育所で、反政府勢力の拠点と言われている場所にある。この地も、度重なる戦闘で避難民化すると同時に、激しい洪水に襲われてきたが、椰子の実の落下で屋根に穴が空いた以外はOK。早速、修理をする。



ブガアク N. T.

イスラム地域の山の尾根沿いの集落。山沿いは、土地が荒れていて作物が育たず、非常に貧しい、度重なる戦闘で荒廃しているが、MCLとの関係は古く、多くの奨学生がおり、大学を卒業した子どもたちも出ている。





セニオマラウ 全国海外教育事情研究会

イスラム地域の山の尾根治いの集落に建てた初等小学校。MCLでは、小学校はコンクリートの半永久的なものが良いので日本政府のODAに要望を出しているが、現地からの強い要請を受けて、保育所二棟分で初等小学校を建設する事がある。



セニオマラウ WE21 おだわら

上述と同様に2教室建てた初等小学校。かつては屋根だけの壁の吹きさらしで勉強をしていた。山の尾根地域は、戦闘時の軍隊の移動地域となり、絶えず避難民化している子どもたち。しかし、学校ができて奨学生となり将来への夢が膨らむ。



ナフンダス 市川 鉄子

大河プランギ川の中州の大きな島に建てた保育所。道はなく、乗合舟でしか到達できない。川沿いの風景は、太古のミンダナオを思わせる美しさだが、絶えず洪水に襲われ、水は建物の軒下まで達することがある。



パマリアン 小役丸 良徳

イスラム地域の湿原の内部の戦闘地域。初期の状況で最初避難民が逃げ込んでくる地域。川に橋が建設され、到達しやすくなったが、現在ある初等小学校が6年生となる予定で、学校の建物を建設するのが大きな課題。



カティンド 京都暁星高校

最近完成した保育所。アラカンの高原のマノボ族の集落にある。マノボ族にとっては、故里のような地域。近くに小学校はあるのだが、保育所が無かった。この地から親のない子どもたち八名が、来年からMCL奨学生となる。



ダトインダ 丹原 美穂

アラカンの土地を移民系に奪われ、狭い尾根治いに貧しく住んでいるマノボ族の集落。移民系の人々から嫌われ、村の支援もなく、村民で先生の給与を出そうとしたが、3食食べられない状況で続かず閉鎖。MCLの仲介で、来年から再開予定。



バラティカン 高橋 毅

戦闘後に最初に建てた保育所の一つ、高橋氏の他の二つはMILF地域に、こちらは戦後、各国からの支援が集中したMNLF地域。その不平等が、その後、地域のリーダーに発展したが、MCLでは、平等に支援を行った。





フォートピキット 京都暁星高校

イスラム地域、ピキット市の市庁舎裏、大きなゴミ捨て場のある貧困地域に建てた保育所。今年の総選挙時に、貧困地域に反政府ゲリラがいるという想定で、軍が数ヶ月滞在し、宿舎として使用。その後市長と交渉し、明け渡してもらった。



ポアイポアイ 北九州ライオンズクラブ

フレンズ幼稚園の故富村昌弘園長が中心になりライオンズクラブで作った保育所。日本資本のパナプラランテーションの開発で土地を追われたマノボ族が多く住んでいる。予算が50万円だったので、一回り大きく窓もガラスが入り立派だ。



ルモット 岡本 るり子

キダバワンの山間マノボ族の地域にある。移民系クリスチャンの土地所有に追われて、マノボ族が次第に姿を消しつつある地域。現地から下には、雄大な風景が広がっているが、そのほとんどがドールのバナナプランテーションだ。



ティナゴ 小雀保育園

この集落は、小学校まで距離があり、低学年の子たちが通いきれないので、1,2年生の初等小学校として使われていた。無許可なので、再び契約通り保育所にもどしてもらい、新たに初等小学校の建物を作る計画を話し合っている。



マロゴン ほるぶ舎

マキララの山岳地にある小さな村に建てた保育所。山岳地の裾野は、ドールのプランテーションで占められており、NPAとの戦闘が絶えない。ただ、近年は比較的平穏で、MCLの農場もあり、多くの奨学生もここから来ている。



ビアフローリス 藤岡私立幼稚園協会・水沼武彦

貧しく山岳地に入植する以外に方法がないビサヤ系の移民の集落。裾野にはドールのプランテーションが広がっている。移民系のクリスチャンも、こうしたプランテーションに追われて貧しい生活を強いられているが、NPAの強い地域。



ウォーターフォール TBSプロジェクト

キダバワンから山に入ったどん詰まりの集落で、土地を追われたマノボ族が吹き溜まって出来たような集落。TBSの番組で紹介された。先祖伝来の地として多少保護されてはいるのだが、美しい滝があり、不法な入植が続いている。



Mindanao Children's Library Foundation, Inc.

貧しいからといって、必ずしも不幸とは限らない
私たちの生活の方が、豊かな国の人々の生活よりも
はるかに美しいと感じるときだってある。
けれども、どうにもならないのが、
お金が無くて学校に行けないときと
病気になっても病院に行けないとき・・・



ミンダナオ子ども図書館方法

- 1、医療や読み聞かせ活動を支援して下さる方々へ・・・自由寄付**
専用の振り込み用紙を日本事務局にご請求いただくか、直接下記の振替口座をお願いいたします。寄付をいただいた方々には、年四回季刊誌「ミンダナオの風」をお送りしています。
- 2、大学生高校生スカラシップ支援の方へ・・・年額60000円（月額5000円）**
振り込み用紙の通信欄に「スカラシップ」と書いて、一部振り込んでいただければ、年四回の季刊誌と手紙、7月プロフィール、2月スナップ写真、5月成績表などが届きます。文通やプレゼントも可能です。訪問の際は、自宅にご案内します。
- 3、里親支援（小学生）・・・年額30000円（月額2500円）**
振り込み用紙の通信欄に「里親」と書いて、一部振り込んでいただければ、年四回季刊誌と2月に絵手紙、7月プロフィール、2月スナップ写真が届きます。文通やプレゼントも可能ですが、返事は半年ほど後になる可能性があります。訪問の際は、自宅にご案内します。
- 4、保育所建設支援・・・30万円（一括振込みでお願いします）**
振り込み用紙の通信欄に「保育所建設」と書いて振り込んでいただければ、年四回季刊誌と10月には毎年現地の保育所のスナップ写真。開所式参加や訪問も可能です。
- 5、古着等の物資支援：詳しくはウェブサイト参照「検索：ミンダナオ子ども図書館」**
郵送およびフィリピン宅配フォーレックスが便利です。

郵便振替口座番号 00100 0 18057
加入者名 『ミンダナオ子ども図書館』

スカラシップ・里親に関する質問、または現地訪問その他に関する問合せは、
現地の松居友に直接メール、携帯電話でご連絡いただければ幸いです。

携帯電話（フィリピンおよび日本直通）：080-5502-3446（松居友）

ファックスは日本事務局に：FAX 093-581-1150

Eメール：mclstaff@zar.att.ne.jp（松居友）ウェブサイト検索：『ミンダナオ子ども図書館』

MCLジャパン（日本事務局）：〒803-0816 福岡県北九州市小倉北区金田2-8-30-1201

Tel・Fax（ファックスと留守電専用）093-581-1150

現地住所：Mindanao Children's Library : Brgy. Manongol Kidapawan City Cotabato 9400 Philippines